



百万人のキャンドルナイト
イン 南信州 開催
竹宵の中、想いを馳せる

三月十一日の東北地方太平洋沖地震による原子力発電所の事故に伴い、全国各地で電力供給が逼迫する中、エネルギー問題や節電へ関心が高まってきています。そのような中、「でんきを消して、スローな夜を。」をテーマとして、飯田・下伊那地域の風物詩になってきている「百万人のキャンドルナイトイン 南信州」が、りんご並木の他、風の学舎、昼神温泉郷、遠山郷、高森町で開催されました。

六月四日(土)に飯田 りんご並木の会場では、午後三時すぎにスタッフが集まり準備を始め、約三千本の竹筒がりんご並木沿いに並べられました。

会場では、蜜ろうアップル・竹宵づくりのワークショップや蜜ろうアップルの販売、フードマイレージゼロ市も行われました。

午後六時三十分には一般の方も加わって、並べられた竹宵に点灯されました。点灯直後は周りが明るくあまり目立たなかつたものの、だんだんと暗くなるにつれ、幻想的な雰囲気

きれいな信州環境美化運動
「ゴミゼロの日」統一キャンペーン実施

「きれいな信州環境美化運動」の一環として、「ゴミゼロの日」統一美化キャンペーンが、四月一日より五月三十一日まで(一斉行動日 五月二十九日)県内各地で行われました。

下伊那管内では、空き缶等ごみ一斉収集、ごみ持ち帰りの意識啓発運動が各市町村で実施されました。

また、昨年度から観光地に重点をおいた美化運動も行われ、昼神温泉郷、天龍峡において関係者を中心にごみ拾い等が行われました。

今年度、下伊那管内では、空き缶が三一七〇kgあまり(前年比九六三kg増)、その他のごみが一九三五kgあまり(同比一一九一kg減)回収されました。ここ数年のごみ回収量は、下のグラフで示すように、平成十九年度を除くとほぼ横ばい



となつていきました。午後八時には、街灯が消されました。この瞬間は、やはり劇的でした。竹宵の明かりが暗闇の中

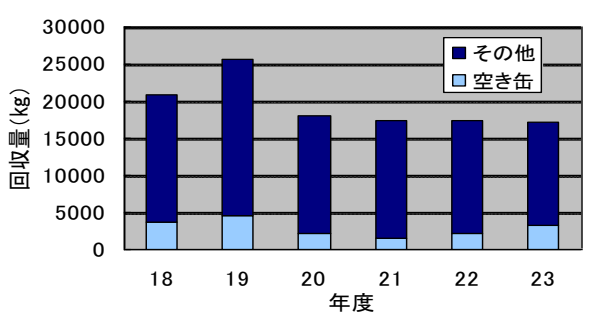
ほのかに浮かびあがり、幻想的で魅惑的な空間に変わりました。

竹宵まつりをきっかけとして、普段の生活スタイルやエネルギーのあり方に思いをいたし、できることから行動していきたいと思うひとときでした。

となつていきます。毎年、同じ場所でごみ拾いを行っている市町村も多いようですので、毎年、捨てられただけ拾っている、逆に言えば、きれいになったところに捨てられていると言えるところかもしれません。

だんだんとごみの回収量が減っていき、このような活動を行わなくても、ごみの捨てられないような環境となっていくのが理想だとは思いますが、いかがなものでしょうか。

ゴミゼロ運動によるごみ回収量



思いは形に

自然保護レンジャー

中上 正晴（飯田市）



見守っていたところ、三年目のこの春、写真のよいうに雪の中で蘇りま

近くの里山に座禅草の自生地があります。三年ほど前になりますが、通常は赤紫色になる苞葉（仏炎苞）が、緑色になる個体が現れ、楽しみに見守っていました。ある日の新聞に、自生地が記載されたカメラマンの投稿記事が、カラー写真付で載りました。それから数日後、様子を見に行くのと、例の緑色の苞葉は根元から折られ、周囲は踏み荒らされていました。無惨な姿にガツカリし、もうダメかと思いました。その後、何度か株を整え、

三月十一日、東日本大地震のあの日あの時、私は仲間と共に、雪の残る中でカタクリ園の春の準備をしていました。早速自宅に戻り、テレビであの自然の凄さ、厳しさを思い知らされました。四月に桜と共にカタクリの花が咲きました。多くの人に自生地へ足を運んでいただき、自然の息吹とやさしさを感じていただいた事と思います。でも、カタクリの株が無くなりました。毎年毎年、多くの花を咲かせて

いた場所に、今年は、そこに花が一本も見当たりません。なぜかそこだけです。猪、鹿、もしかして人間？でも負けません。種まきします。発芽してから五年も六年もしてやっと花が咲きます。今年

黄砂と価格

地球温暖化防止活動推進員

森岡 克俊（飯田市）

も萌芽に数百枚の袋掛けを行いました。そして種まきも、もうすぐです。自然を大切にと皆が思っています。でも、その思いは形にならないと誰にも分かりません。

毎年、春先から花粉症の私にとっては、くしゃみ・涙目などつらい時期です。ただ、ここ数年その期間が長くなってきている気がします。花粉シーズンが終わっても不快な時期は続くのです。その原因の一つに黄砂があるのではないかと思います。

黄砂は、近年東アジア各国でその被害が顕れてきているとされ、その背景にあるのは過剰な放牧や耕作地拡大など農業の問題、生活や経済の変化による問題が原因と考えられています。また北京では、冬に汚れた大気が付着



黄砂の原因やその責任の所在など、まだまだ明らかにならない部分がありますが、一方で黄砂の影響を受けている韓国や日本などは、中国から多くの安い木材や農産物・工業製品に頼っているのも現状です。

昔から安い物は、「安からう悪からう」と言われていますが、今は中国や海外から多くの安くて良い物がそろいます。ただ、長い目で見るときにこの価格は、本当に「安からう良からう」なのでしょうか。

長野県からのお願い

長野県では、今夏、厳しい電力需給状況が懸念されている中、県民生活や経済活動に支障を及ぼさない範囲で、県民総ぐるみの節電・省エネ運動を進める必要に迫られています。その具体的対策を「さわやか信州省エネ大作戦」として取りまとめました。

今後、この「大作戦」を県民総ぐるみの運動として展開していくために、

県内の皆様のご協力をお願いいたします。

具体的には、平日の昼間、午後一時から午後四時まで前年比マイナス5%の節電をお願いいたします。詳しくは、長野県のホームページをご覧ください。

ホームページアドレス
<http://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/ondanka/honbu/index.html>

編集後記

諸事情により、発行が遅くなり、また、内容も県からのお知らせが多くなり、申し訳ありません。今後はこのようなことがないように、努力いたしますが、環境ネットは皆様方の投稿によって成り立っています。各推進員等の活動状況、この地域の状況や課題等を共有していくことを目的としておりますので、日頃の活動や、感じること等、どんなことでも結構ですので、是非、積極的な投稿をお願いいたします。

宴会食べきり

キャンペーン実施中

県では、生ごみの発生抑制を目的とした「食べ残しを減らそう県民運動」の一環として、特に食べ残しが多い『宴会での食事』に焦点を置いて、食べ残しを出さないための呼びかけを行う『宴会たべきりキャンペーン』を左記の期間で実施します。

夏 平成二十三年七月～九月
冬 平成二十三年十二月～平成二十四年一月

暑い夏を迎え、職場等では暑気払いの計画をさ
れていることと思います。

幹事さんは、チラシ『食
べきり応援幹事心得』を
参考に参加者への呼びか
けを行っていただき、食
べ物をごみにしてしまわ
ないことにも配慮して気
持良く宴会を楽しみまし
よう。

出席される皆様も、幹
事さんへのご協力をお願
いします。

◎ チラシはこちら
食べ残しを減らそう
県民運動HP

http://www.pref.naga

no.1g.jp

/kankyo/

haiki/ta

bekiri/i

ndex.htm

また、

生ごみの

排出削減

に取組む、

環境に優



環境に優

レジ袋削減活動 新目標決まる

～平成26年9月までにレジ袋辞退率を95%以上へ～

しいエコなお店、「食べ残しを減らそう」協力店の募集を引き続きしております。(下伊那地域では十三店舗が登録済)登録店の皆さんには、『宴会たべきりキャンペーン』へのご協力をお願いしているところですが、あわせて新規の登録に興味をお持ちのお店がござ

いましたら、県廃棄物対策課または県地方事務所環境課までお問い合わせください。

◎ 「食べ残しを減らそう」協力店を募集しています！

http://www.pref.nagano
.1g.jp/kankyo/haiki/ta
bekiri/index.htm

レジ袋の無料配布の取りやめ(レジ袋の廃止)「レジ袋の有料化」「レジ袋辞退者に対するポイント等の付与や値引き」(「食べ残しを減らそう」の小売店の取組み状況は、全国的に見ても、もっぱら食料品の販売が主体で

あり、それ以外の業種については参考がほとんど見られない状況です。

一般的には、スーパーや百貨店等の食料品売り場がレジ袋削減運動の中心であり、条例によりレジ袋削減を図る自治体にあっても食料品売り場が対象となっています。

このように全国のレジ袋削減の取組を見ますと、南信州レジ袋削減推進協議会の取組は、登録店においてレジ袋の無料配布を取りやめた点及び登録店が全ての業種を対象としている点でそれなりの先進性を持っていると言えます。

その上で、本協議会における取組の課題を考えますと、いかにして食料

めか、道路、河川や山林等に不法投棄される事例が絶えず、平成二十二年度に飯田・下伊那地域で不法投棄として発見されたテレビは四十五台で、平成二十一年度の二十八台に比べて十七台増加しています。

不法投棄防止強化キャンペーンの期間は既に終了していますが、今後も不法投棄の抑止のため、引き続きパトロール等の不法投棄防止活動を地道に行っていくこととしていきますのでご協力をお願いいたします。



品以外の売り場も含めたレジ袋の辞退率を高めるかということ、いかにして食料品以外の業種でレジ袋削減の運動に取り込んでいくかということになります。

昨年度、本協議会の今後あり方を検討して来ましたが、これら課題について考慮しながらレジ袋削減の運動を推進するためには、今後も本協議会の活動を継続してゆく必要性があるとの結論に達しました。また、活動目

標については、特に辞退率の向上について、本協議会の目標は「南信州レジ袋削減取組実施要綱」の第三で「レジ袋削減目標は、『平成二十三年九月までにレジ袋辞退率を八十%以上とする。』としていました。本来レジ袋削減の取組においては、辞退率八十%が最終的な目標ではないこと、既に登録店全体の辞退率は八十%以上を達成していることから、二十三年三月の辞退率の状況(九十二%)を勘案し、新たな目標として『平成二十六年九月までにレジ袋辞退率を九十五%以上』とすることとしました。

今後、皆さんの御協

放射線量・放射能濃度測定

東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故に伴い、県では放射線量・放射能濃度の測定を左記のように実施しています。測定結果等については、県ホームページをご覧ください。
<http://www.pref.nagano.lg.jp/kikikan/hoshasen.htm>

空間放射線量測定

(大気中)

○環境保全研究所(長野市安茂里)での常時測定・モニタリングポストによる常時測定【測定値一時間毎。福島第一原子力発電所の事故以前から実施している文部科学省委託調査】

・地上1mの高さでのNaIシンチレーション式サーベイメータ(以下サーベイメータ)による簡易測定【六月十六日から毎日実施】
 ○県下九か所の簡易測定・サーベイメータによる簡易検査【松本合同庁舎三月十八日から毎日、県内八か所(諏訪市・飯田市・伊那市・木曾町・中野市・小諸市・上田市・大町市)では三月から毎月】
 これら九地点において、

学校においては地上1m・地上五十cm・地表の三地点で実施。

放射能濃度測定

(降下物)

・環境保全研究所において二十四時間採取した降下物の放射能濃度測定【文部科学省委託調査。三月十八日から毎日】

放射能濃度測定

(水道水)

○文部科学省委託調査・環境保全研究所(長野市)の上水(蛇口水)の放射能濃度測定【三月十八日から毎日】
 ○長野県の独自調査

・県下八か所において放射能濃度測定を実施【三月から二週間に一回】
 採取場所・佐久水道企業団事務所(佐久市)、愛宕浄水場(軽井沢町)、中野市役所(中野市)、下諏訪町役場(下諏訪町)、上田水道管理事務所(上田市)、松塩水道用水管理事務所(塩尻市)、箕輪浄水場(箕輪町)、妙琴浄水場(飯田市)
 放射能濃度測定(上下水汚泥等)
 ○長野県流域下水道終末処理場における放射能濃度測定

度測定

・流域下水道終末処理場(千曲川上流・千曲川下流・犀川安曇野・諏訪湖)において、脱水汚泥・焼却灰・溶融スラグ等の放射能濃度測定【五月二日から】、処理場の空間放射線量測定【五月二十五日から】

放射能が検出された焼却灰は飛散流出しないよう場内で適正に保管しており、処理場の空間放射線量は県内の通常値と同程度であり、放流水中の放射能はすべて不検出。

○市町村測定における放射能濃度測定
 ・下水道施設・農業集落排水処理施設・し尿処理施設・水道施設から排出される脱水汚泥等の放射能自主検査結果とりまとめ

放射能濃度測定

(廃棄物処分場内)

○一般廃棄物焼却施設
 ・一般廃棄物焼却施設を運営する市町村等に対し、焼却灰の放射能濃度を測定するよう依頼。

○産業廃棄物焼却施設
 ・県内全ての産業廃棄物焼却施設における焼却灰

の放射能濃度測定【七月】

放射能濃度測定(農林畜産物等)

○県内農林畜産物
 ・主要産地において定期的に測定を実施

○農用地土壌
 ・作付け前の四月二十六(二十七日に、水田四か

所(伊那市・安曇野市・佐久市・飯山市)及び畑

四か所(飯田市・朝日村・川上村・長野市)において測定を実施

○牧草
 ・県内二か所(御代田町・塩尻市)において、五月に測定を実施

「テレビ等の不法投棄防止強化

キャンペーン」で街頭啓発を実施

県では、テレビの地上デジタル放送完全移行を一ヶ月前に控えた平成二十三年六月二十四日(金)から七月三十一日(日)までを「テレビ等の不法投棄防止強化キャンペーン」期間と定め、初日の六月二十四日には県内一斉街頭啓発活動の一環として、飯田市の西友飯田本店で広報活動を行いました。



前号でお知らせしたとおり、不要となったテレビは、所有者が「特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)」により適正に処理を行うこととされていますが、リサイクル料金がかるた